

April 26th 2019



BGN UNESCO NEWS

Bunka Gakuen Nagano Jr. & Sr. High School 号外

We traveled the world to study SDGS !

長野県教育委員会主催『信州つばさプロジェクト』「SDGsスタディツアー in 台湾」

派遣期間 平成31年3月6日～12日

堀内 駿さん(3年) 舎川 ゆうかさん(2年)

台湾の複数の学校に訪問させていただいたり、その中の一校の学生寮にステイしたり、また、ホームステイもさせていただいたりして、世界の同世代の仲間と絆を深めることができました。

驚いたことは、現地の学校や会社に授乳室が備えられておりSDGs5「ジェンダー平等を実現しよう」に絡めて、日本よりも女性が働きやすい環境が整っていたことです。

私たちは日本のこの長野でも何ができるかを考えて、今後この機会を生かす努力をしたいと思っています。



H31/4/22付 信濃毎日新聞

第9回「ESD国際交流プログラム」 in フランス・ドイツ

派遣期間 平成31年3月23日～29日

坂野 志希(2年)

日本ユネスコ協会連盟(東京)の国際交流事業として、全国から選ばれた8人の高校生の一人として、3月24～29日の日程でドイツとフランスを訪れました。「持続可能な開発のための教育(ESD)」に取り組む現地の学校やユネスコ本部(パリ)を見学してきました。掛け替えのない経験に感謝しています。

今後、ユネスコスクールと連携をとりながら、この経験を長野、日本、世界へ広げるミッションを続けます。私一人では、なかなかできることはありません。そこで、文化学園長野中学・高等学校のみなさん、私に力を貸してください。



今後、校長対談、信濃毎日新聞5/3(金)ヤンジャ掲載される予定。

「第9回ESD国際交流プログラム」の募集を先生からお聞きしたとき、ユネスコスクールについて知りたい、学びたい、交流する全ての方々と「つながり」たいとの思いから、挑戦する気持ちに火がついた。その後参加者の一人に選ばれ、これらを目指し、東京での事前学習も含めた、ドイツ・フランスでの学び多い7日間が始まった。

加えてもう一つ、「質の高い教育とは何か」という事を必ず質問してくることを目標にした。現在私は学校で、SDGs目標4「すべての人に質の高い教育を」を選んで、探求学習を行っている。そもそも教育の「質」とは何か。国、地域、文化背景が違う中で、価値を決定することなどできるのだろうか。そんな疑問がずっと、私の心に引っかかっていた。

ユネスコ・パリ本部で教育に深く携わっている方々にこの質問をした時、一番印象に残った返答は、「質の高い教育とは、『地球とどう共生していくかを学ぶ事』が出来ること』だ。」というものである。これは、つまりESD(持続可能な教育)、そのものだ。

「教科書、机、椅子、文具、そして教師。これらが揃って質が高いと言える国もあれば、職に就ける教育を受けられることを、質が高いと言う国もある。その国や地域によって「質」というものは異なっており、質の高い教育とはこれだ!と一概には言えない。ただ一つ言えることは、世界の『環境問題』や、核や内戦などの『平和問題』などの様々な問題に対する自分の考えを育むこと』が、質の高い教育と言える。」ということを教えていただいたのだ。これを聞いたとき、改めて「私は今、日本の長野にあるここ、文化学園長野中学・高等学校という場で、質の高い教育を受けている」ということを実感することができた。

帰国した今、信州ESDコンソーシアムの発表会で宣言した「未来の大人会議」開催について本気で考えている。例えば、本校で行っている「書きそんじはがき」の収集に絡めて、ただハガキ集めの協力をお願いするだけでは実際なかなか上手くいかない現状を見直したい。カンボジアでは、ハガキ11枚で1人学校に行けるが、そのお金はどれくらいの価値があり、どんな教材が揃い、どんな教育を受けることができるのか。彼らが教育を受けられないと、どんな困難が待っているのか。もっとその背景を知りたい。そしてその輪をまず近隣の小学生たちとつながり、背景にある「問題」について「未来の大人会議」にて議論したい。次に問題解決策を探り、皆と力を合わせた活動をしたい。そしてつながった仲間たちと、例えば、もう使用しないが工夫すれば再利用、または資金に変えられるものとして、期限が迫る「缶詰」を集め、フードバンクに利用する等々。やってみたいことは尽きない。

このプログラムで選ばれた他の7人の仲間たち。そして、各国で出会った方々、本プログラムの主催者はじめ、支援して下さっている方々に、改めて感謝したい。最後に、このような学びを支援してくれる学校に入学をさせてくれた親に感謝し、この貴重な経験を無駄にせず、学んだことをつなげ、そして長野・日本のみならず世界中にその輪を広げていきたいと思う。

高校2-7 坂野志希(ばんの しき)

2019年度 国際ユース作文コンテスト

20周年特別企画

テーマ

「優しさがあふれる社会をつくる」

あなたにとって優しさとは何ですか。どうすれば優しさにあふれる社会をつくっていきけると思いますか。作文を書く前に、あなた自身10の「優しさ」を実践し、その経験を一つの参考にしながら、自由に書いてください。

本年度は、特別企画として、本コンテストに参加することが直接より良い社会づくりにつながるよう、作文のほかに実践の要素を加えました。なお、作文のみが選考の対象となります。

応募資格

○ 子どもの部 (小学生・中学生) ○ 若者の部 (高校1年生から25歳まで)

応募規定

- 日本語、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語のいずれかで応募してください。ワープロ可。鉛筆で手書きをする場合は、Bまたは2Bで濃く書いてください。
 - 日本語の場合、1600字以内。外国語の場合、700語以内。(文字数・語数は本文のみ)
 - 作品には表紙をつけ、次の①～⑩を明記してください。(不備の場合は選考対象になりません)
 - ①氏名(フリガナ) ②部門(子どもの部または若者の部) ③年令(2019年6月15日時点) ④性別 ⑤国籍
 - ⑥現住所(含郵便番号) ⑦Eメール ⑧電話番号 ⑨所属(学校名・学年) ⑩タイトル ⑪言語
 - ⑫文字数(外国語の場合は語数) ⑬あなたが実践した優しさ(10項目の実践内容を簡潔に書いてください)
 - 応募作品は自作、未発表のものに限ります。盗作が判明した場合は失格となります。
 - 応募作品は返却しません。
 - 応募作品の著作権は主催者に帰属します。
 - 学校等の団体で応募される場合は、応募者名・年令一覧と担当指導者名・連絡先を添付してください。(書式自由)
- ※ 表紙および団体応募の書式は、五井平和財団のウェブサイトからダウンロードすることもできます。
 ※ 応募作品の受領確認は行ってありません。
 ※ ご応募の際の個人情報は国際ユース作文コンテストの目的以外には利用いたしません。

応募方法

郵送またはEメール(下記応募宛先まで)

応募締切

2019年6月15日(土)必着

各賞

- 文部科学大臣賞……………各部門 1点(賞状と賞金10万円、副賞)
- 優 秀 賞……………各部門 2点(賞状と賞金5万円、副賞)
- 入 選……………各部門 5点(賞状と副賞)
- 佳 作……………各部門25点(賞状と副賞)
- 努 力 賞……………該当者がいる場合(賞状)
- 学校特別賞……………該当校がある場合(賞状とトロフィー)
- 学校奨励賞……………該当校がある場合(賞状)

【募集】

あなたの「作戦」教えて

「SDGs」の17の目標に関わる活動で、みなさんが学校などで取り組んでいることを教えてください。

具体的な活動内容、解決したい課題、目指す未来、あなたの名前、住所、電話番号、学校名、学年、メールアドレス(ある場合)、を書いて、下記宛先へ。写真大歓迎。

宛先 : 朝日中高生新聞「SDGs」係

メール : chuko@asagaku.co.jp

郵送 : 〒104-8433(住所不要)

FAX : 03-3545-0727

